

こだま俳壇（2018年4月句会）

- ふきのとう採って食べなと床の姉 後藤 貞夫
春耕や野良着にこすり握手せり 小川 水草
見守りに照れる笑顔の入学児 瀧澤 正行
間のびした迷子の知らせ花の丘 田中 和夫
春雷や付度国会叱咤する 角田 英昭
終活もままならぬまま桜散る 三井 光子
夕暮れの雨の気配や鱈焼く 島田多嘉子
若き日の父母もいた桜かな 友井 眞言
今は只余すことなく余花眺め 高橋 和江
公園の朝清掃やさわら焼く 本山 文子
花見酒格別うまし税還付 木村 武子
一本桜村の期待の応へけり 松尾佐知子
春嵐憲法論を聴きにゆく 鳥海 敏雄
花吹雪髪の間と間にとどまりぬ 中村 桂子
一片の桜の花を飲み干しぬ 白井保次郎
射干の花窓辺に鳥の糞の跡 井村 友彦
花冷の撫づれば髭のざらつける 講師・太田 土男

